



会報 第13号

発行所 立校会
栃木県農業高等学校
真岡農業窓行人集部
同窓会印刷
同窓会印刷
同窓会印刷
同窓会印刷



振り返って

昭和十六年度卒
同窓会長

菊地 恒三郎

芳賀郡立農林学校として開校以来、この地方の農業を振興させてきたのは真農の教育でありました。真農魂といっても具体的に言葉での表現はむずかしいが、農業を後継して先祖と家を守り、国策を踏まえて黙々と土に生きる姿こそ真農魂の現れであろうと思います。

私は農家の二男でありました。父が真農へ入学しました。父は農業人になったのか、兄が三つ違いでありました。兄が中学校に入ると二人の進学となり経済的に大変なものであったのだらうと思います。私たちの時代は中学校に進学させていたというところが、どれほど大変だったのか、今の大学進学などと比べようもないほどでありました。ただありがたく感謝の気持ちで勉強に励みました。

当時、中国との戦争の最中であり、イギリスやアメリカとの関係も悪化、風雲急を告げる状況にあつて、卒業年度の昭和十六年十二月八日は遂に太平洋戦争の開戦となりました。食糧の生産は国家の一大事となり又若い者は戦場へと、国内の戦時体制は強化され、農村における増産活動は日を追って激しくなっていました。

戦い終って戦後を迎えてみると、真農魂を持った農村の指導者たるべき優秀な先輩たちの多くが戦死をし、言語に絶する食糧難の打開に大きな障害となりました。間もなく

世界の中の日本農業としてその競争に勝てる経営と技術が要求される訳ですから、その手腕を持つ農業人の育成が必要になってきた訳です。科学技術の進歩は機械面だけでなく、生物工学としてのバイオの時代でもあります。まさに農業教育は少数精鋭主義で立ち向かう時代であり、農業高校の再編が必要になってまいりました。

今、本校を考えてみますと

卒業生のほとんどが農業以外の職業に就いています。農業の職業教育は生き物を育てる実をさせるという、しかも自然の中での体験学習は人間教育として最高のものであります。さしていくその中心的教育の場として確立させていかねばなりません。

同窓会各位の一層の協力を進めておきます。内容は現在農業・園芸・畜産の三学科三クラスを農業経営科二クラスにして農業機械科一クラス



一年を顧みて

学校長 龍澤 宏行

激動の昭和も幕を閉じ、一月八日からは「平成」と元号も変わり、二十一世紀へ向けて新たな出発の年になりました。

同窓生の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。昨年度創立八十周年に際しましては、記念式典、シンポジウム「桂」の植樹、記念庭園の造成、同窓会名簿の発行などの行事を実施し、多くの成果をあげて無事終了いたしました。これも同窓生皆様の物心両面にわたる多大なご支援、ご協力、ご指導のおかげであると心から感謝申し上げます。

この一年間の学校の主な出来事についてお知らせいたします。

(一) 環境緑化推進運動功労者として内閣総理大臣より表彰される。

本校は昭和五十六年度に全日本学校環境緑化コンクールに参加し、最優秀賞(特選)に輝きました。その後七年度に輝きました。その後七年度に輝きました。その後七年度に輝きました。

(二) ミレーの「落穂拾い」の絵画寄贈される。

この絵画は、真岡市内四農協のご好意により本校に贈られたものです。フランスのルイブル美術館の原画と見分けのつかない程よく出来ている複製品で、大きさ、額とも同形、色はコンピュータを使って出した精巧なものです。会議室に掲げ、生徒の情操教育に大いに役立てております。

おります。わが国も臨教審の答申が行なわれ改革が進められております。本県においても「とちぎ新時代創造計画」の一つとして高等学校の学校学科の整備が進められております。

本校においては平成二年度にスタートすべく、現在準備を進めております。内容は現在農業・園芸・畜産の三学科三クラスを農業経営科二クラスにして農業機械科一クラス

これから

昭和五十四年度卒
同窓会青年部々長
藤 田 芳

年々農業を取り巻く環境が厳しくなってきたのは、誰しもが実感している事だと思ひます。しかし、厳しい環境といふと、楽になるわけでもありませんし、自分の経営ですから、行政のせいばかりにも、してはられません。

やはり自分で(自分でも)打開策を講じて行かなくては、先細りになって行く場合も、生じて来るのではないかと思ひます。私達自身、真剣に経営努力をしていかないと、やがて後継者問題として、親が「農業より勤めにでも出たい」と、子供に言わなくてはならない場合も出てくると思ひます。

本校同窓の先輩方の中にも立派な経営をされている方がたくさんいらっしゃいます。常に経営向上を目指す私達青年部は、そういった先輩方との関係を無駄にする事なく色々な角度から、お手本にさせていただける機会を今後持てたら、又一味違った青年部活動方向が開けてくるのではないかと思いますし、経営向上の一つのきっかけになる



農業雑感

昭和五十一年度卒

青木良雄



国際化時代を迎えて、年々消費者の口にいれる、消費者とに日本の農業はかつてない厳しい情勢にはいつてきまし

た。農産物の貿易自由化への外圧は、数多くの難題を投げかけており、特に米をはいめとする野菜、果実、畜産物の自由化は、わが国の農業にとって死活問題になると思わ

れます。今は作れば何でも売れるという時代ではないのです。売れるものを作らねばならないのです。もっともこんなことは商品生産の商工業社会では当然のことなものですから、農

業生産の場ではこれまでこのあたりまえのことが十分に行われていなかったのではないかと

思います。特に米・麦等を増収面ばかりに力を入れ、

酪農に生きる

昭和二十四年度卒

小宅淳右



私は昭和二十四年春、真農を卒業し、即就農しました。当時、社会は敗戦後の混沌とした時代で、政治・経済・文化、いづれも新しい時代にむ

け復興を開始した時代です。我が家の農業経営は、米麦を主とした経営であり、僅かな面積で一年二回の米麦の収入

では極貧の生活をする以外に方法はありませんでした。年中雑草との闘いで、酷暑の中

又寒い日の除草は全くつらい日々でした。昭和二十年代後半になると県や各市町村は政府の農業振興施策を普及徹底する手段として、農学博士、その道の権威者等に依る農政顧問を

PTAの活動状況について

昭和三十八年度卒

PTA会長 広瀬静



日頃同窓会の皆様には御指導御後援をいただき誠にありがとございます。一昨年の十一月十三日には、創立八十周年記念式典が多数の御来賓

関係者出席の上盛大に挙行されました。これも一重に同窓会役員の方々の初め皆様方の多大な御尽力の賜物と、PTA

A一同心からお礼申し上げます。次第でございます。会報「真農」発刊にあたり「PTAの活動状況について」と言うテーマで原稿の依頼がありましたので、本年度の主な活動状況についてお知らせしたいと思います。本校PTAの基本

方針はPTAの連携を元に、活動するPTA」と言う事で、本年度の活動方針を二項目掲げ、今日迄取り組んで参ります。



活躍するOBサッカー

昭和四十九年度卒

大野原クラブ監督 磯忠

当クラブは昭和四十九年四月、真農高サッカー部OBを中心として結成したサッカークラブであり、以来、多くの方々のご指導、ご協力をいただき、今日まで活動を続けてまいりました。

活動の中心は週二回(夜間)の練習、そして栃木県社会人サッカーリーグへの参加であります。週二回の練習については、県社会人サッカーリーグの開幕(六月)に照準をおき、毎年一月中旬より実施しております。

県社会人サッカーリーグにおけるこれまでの経過であり、県リーグは一部(十チーム)、二部(十六チーム)三部(各地区リーグ)の三部

に実施されました。正月を飾る寄せ植鉢物、二月十八日実施される東京帝国劇場での観劇会等です。なおPTA事業の主なものとしては、総会に始り年四回の役員会、各学年保護者会年二回、二年保護者個別懇談会、三年三者懇談会、支部会、地区懇談会(各支部において随時開催)、PTA母の会他校視察、本年度は新潟県新発田農高、芳賀地区PTA指導者研修会、会報「真農高」発刊(年二回)生活指導委員会(年二回)母の会運営委員会等です。又本年特筆すべき事に、本校が緑化活動功労高校として全国で只一校六月二十八日首相官邸で竹下首相から表彰されました。

優良農家経営

昭和三十四年度卒

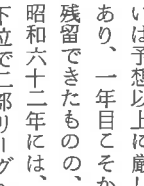
真岡支部 高松紀男



私は、本校を卒業し農業後継者として、就農しました。昭和三十年代は、まだまだ戦後の食糧難がつづき、農産物の自給が不足の年代でした。我が家の経営も稲作主体から稲作に於ては早期栽培技術等がとり入れられ、米の増産の時であり、又農業収入に於ては七ヶタ農業を目指せと言

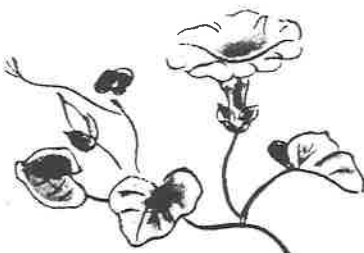
われた時でもありました。それから一般農家に農業機械が普及し初めた頃でもありました。当時、我が家の経営内容はたばこ・米麦の畑作が主体の経営を行っていました。就農間もなく、米の一割増産及び早場米奨励、又新規開田や陸田等には補助金等、稲作に対する優遇対策がとられた年代でしたので、土地条件等を考え、稲作を主体とした経営を、稲作を主体とした経営で農業収入の増大を計り、

現在は「毎プラス米麦」の経営を行っています。今後は、機械の共同利用や共同作業等による、生産コストの低減を図ると共に、消費者のニーズに合った優良品種をとり入れた経営に取り組みたいと思います。



七ヶタ農業を目指すため、開田及び陸田等を行ってまいりました。

七ヶタ農業を目指すため、開田及び陸田等を行ってまいりました。しかし昭和四十年代中頃より米余りがささやかれ初め、稲作の減反が奨励され、又政府買入れ米が制限されるようになり、農業は曲り角に來たなどと言われる様になり、又市



活動報告

生徒会活動を振り返って



生徒会顧問 橋本真司

生徒会活動は会長と副会長と役員十五名の役員と顧問が力を合わせて、多くの行事を運営してまいりました。今年度も去年と同様、「生徒たちによる生徒会運営」ということを目標にして活動を目指してまいりました。

六十三年度の生徒会関係の行事を振り返って見ますと、一学期は部活動紹介、常任委員会、生徒総会、野球の応援、二学期は体育祭、学校祭などがありました。

部活動紹介では各部長が新入生を前に自分の部の紹介をするわけですが、部活動の活動状況が一つの状態であるため、一人でも多くの新入生を自分たちの部に入部させようという熱意をみられました。

生徒総会においては、大勢の人の前で話すことに慣れていないか、役員の中にはかなり緊張している者も見受けられましたが、彼らにとっては貴重な経験であったことと思います。

野球の応援では会長の助川君を中心に熱い練習が続けられ、選手一人一人に応援歌が作られるなど頼もしい応援団になりました。しかし、試合当日、雨天のため開始時間が遅れるなどの悪条件のためか、最後で応援団と共にがんばりましたが惜敗してしまいました。二学期に入って間もなく体育祭があったわけですが、前年度からの役員経験者を中心に種目の検討、メンバー表の作成、プログラム作り、前日の会場作りや用具の準備、当日の運営に後片付け

農業クラブ活動状況について

農業クラブ顧問 小林浩行

今年度も早いもので、平成元年の新役員も決まり、残す所大きな行事では、一月末のプロジェクト発表会、二月上旬の三団体総会、中旬の新規就農者を励ます会の三つだけになりました。

今年度も農業クラブ活動の三大目標である「指導性」「社会性」「科学性」を高める事を目指して多くの行事を実施してきました。この行事を自主的かつ積極的に運営してきたのが、大山会長以下十六名の役員生徒であります。

一年間の活動をざっと振り返って見ます。三月末の三団体役員研修会、四月に入つてすぐの一年生に対する農く説明会、五月の校内意見発表会、六月の鑑定競技会、十一月の学校祭の一環として実施した収穫祭と実に多くの行事を実施してきました。

又、県大会の意見発表会が六月十七日に本校で開催されました。この運営も立派にできました。校内大会最優秀生徒が県大会に出場できるわけですが、今年度も多くの生徒が本校代表として出場し、立派な成績を収めました。以下報告

今年度の活動は、昨年引き続き「奉仕・勤労」に重点を置いて実践してきました。西真岡保育園での保育実習は、年四回行い、多数の参加者を得ることができました。

子供との触れ合いの中で生徒のひとり、このように話しています。「子供が好きになりました。純粋な子供達に



家庭クラブ活動について

家庭クラブ顧問 市村恵子

今年度の活動は、昨年引き続き「奉仕・勤労」に重点を置いて実践してきました。西真岡保育園での保育実習は、年四回行い、多数の参加者を得ることができました。

子供との触れ合いの中で生徒のひとり、このように話しています。「子供が好きになりました。純粋な子供達に



見ていると、なんだか今の自分がとてもいい加減だったような気がしました。子供には自分の真心以外通じないように思われました」と、幼い澄み切った心に触れて、今の自分の姿を見つめ直すいい機会であつたように思われます。

また、学校の近くに特殊老人ホーム「椿寿園」が新設され、6月より5回訪問しました。老人や施設で働く人々との接触交流を通し、福祉問題への理解を深め、思いやりの心を育み、人間尊重の精神を身につけることを目的に訪れました。初め、役員が見学をして、近代的建物として充実した施設・設備に驚かされた。今まで頭に描いていたイメージを塗りかえるものが多数あり、学校にもどり、ク

青年部研修に参加して

青年部事務局 青柳真一

今回の役員研修は計画通り昭和六十六年十一月十七日に県内視察を実施しました。那須郡西那須野町西富山にあるカゴメパイオ工場を見学させていただきました。ここでは洋蘭を主体とした組織培養と、バイオテクノロジーを用いた洋蘭の苗の生産です。

準備室では苗をプラスチックで培養するための培地を作成したり、器具の洗浄や加熱殺菌等を行います。無菌室では葉や茎の成長した組織を切り取り、たし、結びといたします。

全国大会に参加して
三年 粕谷卓史

私は、この秋行われた、第三十九回、日本学校農業クラブの全国大会に出場しました。大会には、六千人以上のクラブ員たちが集い、日頃の学習や研究の成果を発表、競技しあい、私は鑑定競技の部に参加しました。私は、このよう

な大きな大会に参加したのは初めてのことでしたので、競技が始まって、あがりっぱなしで最初から十問くらいは、どうやらたか覚えていません。ほとんど緊張の間に大会は終ってしまい、自分の力を十分発揮することができませんでした。私は運よく優秀賞をとることができました。

他の人もがんばったのですが残念ながら入賞はがしてしまいました。

私は、この大会に参加したこと、努力することの大切さを学びました。これから私は、卒業後社会に出ていくのですが、この大会で学んだことを生かして、自分自身を見つめながら生活し、自分自身を向上させ、社会の一員としてはやくはやく人間にな

りたいと思います。

校長先生を始め、ご指導いただいた先生方、本場にあるがとうございました。

最後に、来年は記念すべき第四十回大会が、北九州で行われるということです。来年は、鑑定競技だけではなく、意見発表、プロジェクトや、意見発表、役立てようと真剣なまなざし一人でも多くの人が参加し母校の名誉と自分の栄光のため一人でも多く入賞して、できれば最優秀賞をとってもらいたいと思います。

頑張ってください。

昭和63年度会務並びに事業計画

(本会)

項目	年月日	場所	摘要
入学式	63. 4. 7	本校	会長出席
転任職員 餞別金贈呈	4. 8	"	"
会計監査	4. 30	"	昭和62年度会計 監査
役員会	4. 30	"	総会について
総会	4. 30	"	会務事業報告 決算・予算案他
祝賀会	4. 30	市内	表彰者 優良農家他
役員会	10.	本校	会報発行 優良農家推薦他
会報編集 委員会	64. 1	"	会報編集
会報発行	64. 2	"	会報発行
常任理事会	64. 2	"	優良農家推薦
同窓会式	64. 2	"	役員出席
卒業式	64. 3	"	"

昭和63年度予算

(本会) △印減

1. 収入の部

科目	予算額	前年度 予算額	増減	摘要
1. 会費	418,000	408,000	10,000	昭和62年度卒業生
2. 繰入金	0	0	0	
3. 繰越金	342,933	333,664	9,269	前年度繰越金
4. 雑収入	1,000	1,000	0	預金利息他
5. 寄付金	1	1	0	
計	761,934	742,665	19,269	

2. 支出の部

科目	予算額	前年度 予算額	増減	摘要
1. 運営費	175,000	145,000	30,000	
①総会費	20,000	20,000	0	資料作成等
②会議費	50,000	40,000	10,000	昼食代等
③事務費	5,000	5,000	0	事務用品代
④旅費	80,000	50,000	30,000	
⑤通信費	20,000	30,000	△10,000	切手代
2. 渉外費	200,000	150,000	50,000	
①慶弔費	200,000	150,000	50,000	香料等
3. 事業費	170,000	170,000	0	
①入会式費	40,000	40,000	0	印鑑代
②名簿発行	10,000	10,000	0	印刷代
③会報発行	120,000	120,000	0	"
4. 雑費	66,934	127,665	△60,731	
5. 予備費	150,000	150,000	0	
計	761,934	742,665	19,269	

同窓会総会において

新会長に 菊地恒三郎氏

昭和六十三年同窓会総会が、四月三十日(土)本校会議室で開催されました。

会長の大倉一郎氏が健康上の理由で辞任され、後任に真岡市長の菊地恒三郎氏(昭和十六年卒)が選任されました。辞任された大倉氏は昭和五十九年に就任以来四年にわたる同窓会の発展に尽力されてきました。

また、新しく就任された菊地氏は現在真岡市長の要職にあり、今後の同窓会発展に手

同窓会役員

◎本会役員

会長	菊地恒三郎
副会長	勝田正
常任理事	金数芳雄
	小倉信義
	青柳宗内
	菅谷忠太
	大滝弘明
	井野博
	古橋修一
	青木良雄
	藤田進
	田上芳
	野沢進一
	加藤博弘

◎支部長

真岡	山田孝一郎
山前	山下圭治
大内	大塚克己
中村	川又侃
久下	小島豊
物部	野沢弘
長沼	海野保
益子	小玉光威
田野	広田源太郎
七井	佐藤忠雄
水橋	小林武一
祖母井	山本豊
南高	黒崎亨
茂木	荒井睦夫
小貝	関沢仙
市羽	小林泉吉
宇都宮	青柳宗内
清原	半田光有
瑞穂	早乙女俊夫
本郷	小口栄敏
上三川	なし
河間	渡辺忠雄
茨中	杉山恵一
五所	杉山和男
小栗	広沢茂
岩瀬	吉田誠義

◎青年部

部長	藤田真一
副部長	佐藤真一
常任理事	大滝和弘
	宮田耕造
	石川祐一
	小川勝則
	本多智明
	菅谷一雄
	川上洋一
	小玉貴浩
	豊田浩之
	山田博之
	石塚孝男



時代を反映する進路状況

進路指導部長 西岡隆義

昨今の経済潮流の変化の速さには目を見張るものがあり、本校の過去の進路概況をながめてみても、それぞれの時代の景気の動向や産業構造の変化が大きく進路状況に陰を落しているのが読み取れます。

昭和50年代の前半までは、

＜表1＞ 自営学科（農園畜科）			
	自 営 （進学後の 自営者を 含む）	就 職	進 学 （進学後の 自営者を 含まず）
S 43年度	92.2 %	7.2%	0.6 %
S 48 年度	50.9 %	43.1%	6.0 %
S 53年度	50.0 %	43.5%	6.5 %
S 58年度	20.5 %	60.2%	19.3 %
S 63年度	9.9 %	75.2%	14.9 %

生活科				食品化学科		
	自営・在家	就 職	進 学	自 営	就 職	進 学
S43 年度	49.6%	45.4%	5.0%	1.9%	90.7%	7.4%
S48 年度	2.5%	86.1%	11.4%	0%	93.8%	6.1%
S53 年度	0%	92.5%	7.5%	0%	90.0%	10.0%
S58 年度	4.0%	89.2%	6.8%	3.4%	89.7%	6.9%
S63 年度	0%	89.3%	10.7%	7.9%	76.3%	15.8%

カーなどには、毎年20名から30名の女子生徒が採用され、カメラ様々の時代であったものがその後、円高基調が続くと一転してこれらの業界からの求人数が激減し、代って内需型産業や流通、販売、レジャー関連企業からの就職口が増えてきております。本校における進路概況について過去20年間を5年刻みでながめてみると表1・表2のようになります。

本校の中心の学科である農業科、園芸科、畜産科の3学科についてみると、昭和43年度の自営率が92%であったものが10年後の53年度には50%と社会構造と農業情勢の変化の影響をものに受けた格好に



なっています。

これに対して就職・進学率では、過去20年間で就職で10倍、進学では15倍と急増し、農業高校の学科再編成が急務となってきました。

◎進学先

61年度 宇大(農)、立正大(短)、宇都宮調理師専門学校、東北測量専門学校、群馬自動車整備専門学校2、作新女子短大2、国際情報ビジネス専門学校6、中央工学校、埼玉工業専門学校、宇都宮デザイン電子専門学校、津田沼専門学校、宇都宮高等産業技術専門学校3、下館高等産業技術専門学校、宇都宮文化服装学院、栃木県美容専門学校、作新高等美容学院、栃木県農業大学校8、鯉淵学園3、農林水産省農業者大学校、62年度 山形大(農)、茨城大(農)、日大(農獣医)、作新女子短大、千葉大別科、国際情報ビジネス専門学校8、システムサイエンス宇都宮専門学校4、宇都宮調理師専門学校2、東京学園調理師専門学校2、東京デザイン専門学校、横浜調理師専門学校、宇都宮ビジネス専門学校、華学園養老専門学校、東京アニメーター学院、明美和装専門学校、大原簿記学校、東北柔道専門学校(一部)、作新高等美容学院、栃木県農業大学校9、宇都宮特別専攻科宇都宮高等産業技術学校2

編集後記

会報も号を重ねて第十三号を出すに至りました。卒業生も数えて一万有余名、それぞれが活躍をされています。この会報が会員相互の母校を思う心をつなぐ糧となることを期待しております。